

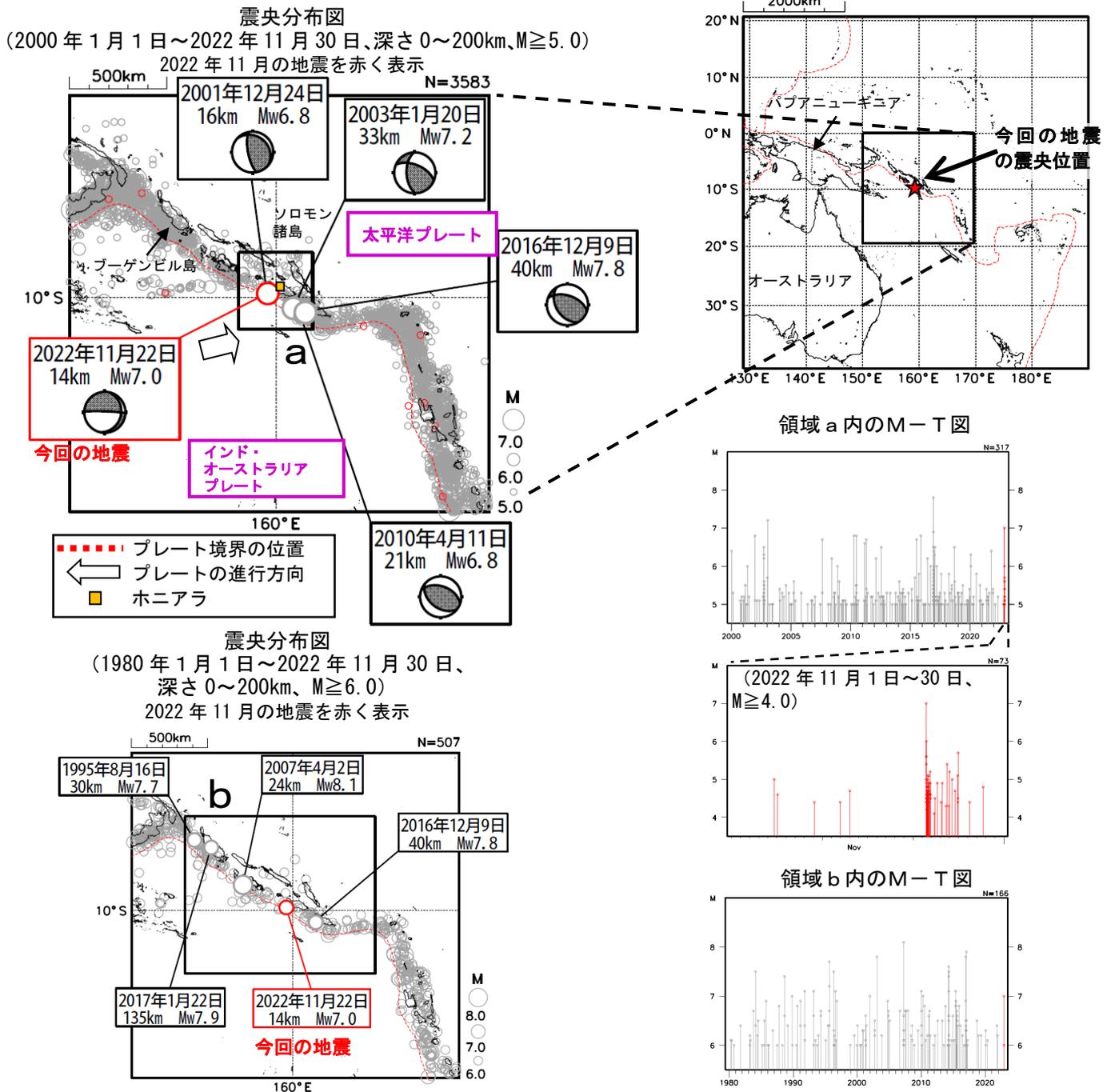
11月22日 ブーゲンビルーソロモン諸島の地震

2022年11月22日11時03分（日本時間、以下同じ）にブーゲンビルーソロモン諸島の深さ14kmでMw7.0（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、北北東-南南西方向に圧力軸を持つ型である。この地震の発生後、同日11時37分にはMw6.0の地震が発生するなど、地震活動が活発になった。

気象庁は、この地震に対して、同日11時23分に北西太平洋津波情報を、同日11時29分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。この地震により、ソロモン諸島のホニアラで0.03mの津波を観測した。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では、インド・オーストラリアプレートの沈み込みに伴い、地震活動が活発である。2016年12月9日にはMw7.8の地震が発生し、死者1人の被害を生じたほか、ニューカレドニア島のヤンゲンで0.43mの津波を観測した。

1980年以降の活動をみると、今回の震源付近（領域b）では、M7.0以上の地震が度々発生している。2007年4月2日にはMw8.1の地震が発生し、津波が発生したほか、死者54人などの被害を生じた。



※震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2022年12月7日現在）。ただし、発震機構とMwは、2010年4月11日、2016年12月9日、2017年1月22日及び今回の地震は気象庁、その他の地震はGlobal CMTによる。2016年12月9日の地震及び今回の地震の津波の観測値は米国海洋大気庁（NOAA）、被害はOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による。2007年4月2日の地震の被害は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）より引用。
 * 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4 (3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.